


【前回協議された「地元特産品を活用した取り組み」の意見】

- 場所について、観光のことも含めると施設は北の方（観光案内所付近）にあるほうがいい。トイレ等も隣接しているので、出来れば厚田公園側に。
- 農協に野菜や果物を買に行っても、地元の野菜が売られていない。
- 直接お客さんが農家に買いに行けるように案内、表示することが必要ではないか。
- 観光も視野に入れると、JAいしかりが行っている樽川の「直売所」があげられる。農産物販売だけでなく、飲食できる店も組み入れている。
- 農業と漁業が共に販売する機会がないのではないか。（以前は朝市で農産物を売っていたが・・・）
- 考え方として、道の駅の発想で観光客をどんどん狙うのか、それとも、安全安心・こだわりでいくのか、方向付けをしなければいけない。
- 例えば、夕日の丘で年間人がどれくらい来ているのか、その中の何割の人が物を買っているのかなどの「具体的データ」も必要ではないか。
- 「菜の花」みたいに、販売目的で作っていない農産物を売るようにするといいのではないか。
- 農家数軒、最後に朝市など、バスツアー企画として展開してはどうか。実施については、平日はバスツアー、土日は直売所販売など毎日提供できるようになればいい。ツアーをガイドする方がいたらいい。

## 【前回の河合委員からの提案書】

地域協議会提案事項

「地元特産品を活用した取り組みについて」  「地元特産品の販売と地域づくり」

### ●厚田区の特産品販売の状況

厚田区は基幹産業である水産業、農業が盛んであり、農産物、海産物など様々な販売品もたくさんあります。主に販売は市場や系統出荷で行われているところだとおもいますが漁業では地元、厚田朝市などの海産物や加工品の販売がシーズンとおして行われておりにぎわっているところだと思います。一方、農業に関して農産物を消費者に買い求めることができる直売店舗が厚田には少ないためいま一つ農産物の地元販売がほとんど行われていません。

### ●この状況を踏まえて

このことにより特産品販売所を設け厚田の農産物または海産物など様々な厚田の商品を一括して販売できる直売店が出来ればと考えているところです。

これによって地域の活性化ができ厚田のカラーが出すことができる一つの手段になるのではないか。

### ●その後の展開

この特産品販売所を基盤に「地域づくり」の一つを築けるのではないか！

- 商品開発
- インターネットショッピング
- スタンプラリー
- 人材バンク（販売店員など）
- 他施設との連携で相乗効果
- 加工品づくり
- 

### ●設置場所「夕日の丘」パーキング場

利点

- 日本海を一望できる
- 国道に面しており駐車しやすい
- 観光案内所がある
- 厚田公園や厚田資料室、海浜プールなどの施設がすぐそばにある

### ●問題点

- 農業、漁業、商業の人々に出店の理解（出品など）をしてもらえるか？
- 厚田市街から若干の距離があるため高齢者には来店がむずかしい（地元客）
- 現在ある厚田朝市とかぶってしまわないか？

## 各班 エリア分け 代表者 コーディネーター 想定避難所

厚田地区 … ①厚田川南側 河合保郎

高田 吉田 ②厚田川北側 小林 薫

古潭地区 … ①古潭市街地 沢田富男

相原 澤田 ②古潭山側 (佐々木～斉藤) 長良幸

嶺泊地区 … ①嶺泊海側 木村 実

相原 澤田 ②嶺泊山側

望来地区 … ①桂沢 諸橋則治

渡部 ②越後沢 柴田 肇

槻館 ③正利冠 福沢和夫

笹本 ④望来市街地 (望来川右岸側) 中西元典

佐藤 ⑤望来市街地 (望来川左岸側) 伊達義男

⑥望来坂下 (正利冠川左岸側) 本吉 巖

聚富地区 … ①聚富海側 新開地 トーメン 本吉俊一

篠原 伊豆原

濃昼地区 … ①濃昼市街地

尾山 清水

# 石狩市厚田資料室

子母澤 寛

**特別展**  
6月15日(水) ~ 7月4日(月)



戸田城聖

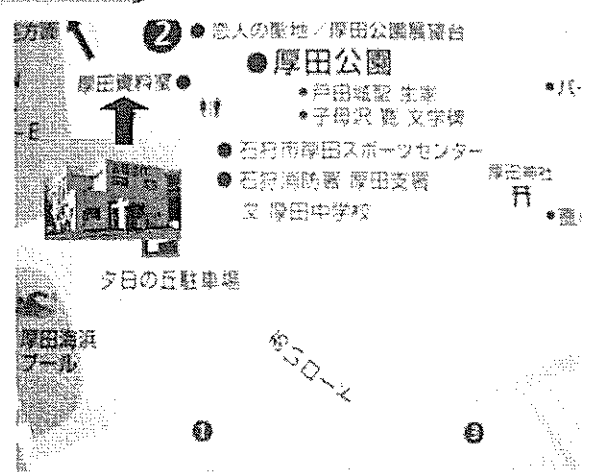


**初公開!**

子母澤寛の直筆原稿  
「木曾の花道」・「名月記」  
文芸評論家・中谷博氏宛の直筆書簡

## 「子母澤寛と大道書房」

- 開館時間 / 午前10時～午後4時まで
- 休館日 / 火曜日(火曜日が休日の場合は、次の平日が休館)
- 入館料 / 大人 200円(中学生以下無料)  
団体 160円(15名以上)
- お問合せ / 石狩市教育委員会  
文化財課 TEL 0133-62-3711  
厚田生涯学習課 TEL 0133-78-2250



何度も推敲したことがわかる「木曾の花道」の直筆原稿



# 子母沢直筆 情熱の跡

【石狩】市内厚田区出身の歴史小説家、子母沢寛（1892～1968年）の直筆原稿や、親しい文芸評論家にあてた手紙を展示した特別展が、厚田公園内の厚田資料室で開かれている。原稿用紙には何度も推敲した跡があり、一語一句に注意を払った子母沢の作家としての情熱がうかがえる。（上田貴子）

## 厚田出身の作家 資料室で特別展

子母沢は勝新太郎氏が主演を務めた映画「座頭市」の原作者で知られる。特別展に展示している直筆原稿は、子母沢が得意とする親分、子分の股旅小説「木曾の花道」と、1962年に中央公論社から発行された暮末維新ものの短編集に収められた「名月記」の二つ。

「このうち、「木曾の花道」は左下に「子母沢寛」と印字されたオレインジの升目の原稿用紙に、升目にこだわらず万年筆ですらすらと丸みを書いた文字を書いてい

「ルーラン」なども展示している。原稿はどどころか加筆したり、赤鉛筆で書き込んだりして、何度も物語を推敲したことがわかる。

手紙は、子母沢の作品を評論した文芸評論家中谷博氏（52年10月1日に送ったもので、自身の作品が出版された喜びや狭心症を感じたことをつづった。ほか、旧厚田村の小学校で子母沢を教えたこともある作家河合徳右の代表作

直筆原稿や手紙は本年度、市が札幌市内の古書店で購入。特別展は7月4日まで。また、常設展では子母沢の写真や愛用のつえ、映画「座頭市」関係のボスカーなどを展示している。開館は午前10時～午後4時。火曜日休館。入館料は大人200円、中学生以下無料。問い合わせは厚田生涯学習課（78・2550）へ。

# 原稿に加筆、何度も推敲